

6月22日付朝日新聞1面で 耳原総合病院が紹介されました



2017年6月22日朝日新聞夕刊より、許可を得て掲載しています



2017年原水禁世界大会長崎大会

核兵器禁止条約採択後 核兵器のない世界へ向けて前進した3日間!

参加者全員が記念撮影



被爆72年目の長崎は、心配していた台風も過ぎ去り、暑い日々でした。開会総会の長崎市民会館には6000人が集まり、席の確保に苦労する状況で、開始前から熱気に包まれていました。国連代表、政府代表が壇上において、海外代表の多さが30年前に参加した大会との違いを感じました。

核兵器禁止条約ができたことを喜ぶ発言、ヒバクシャに敬意を表する発言に会場が大きな拍手でこたえ、ひときわ大きな拍手で迎え

られた長崎市長が条約の採択を喜ぶとともに、日本が唯一の戦争被爆国として条約に参加すべきことを訴えられました。核兵器禁止条約を進める日本の政府を作ろうと、総会、分科会や交流集会でも多くの方が発言されたことに、核兵器禁止条約の力、歴史的大会を実感しました。

初日は夕方まで総会に参加し、夜は堺代表団の交流会。翌日はそれぞれ分科会に参加し、夜は民医連、医労連の交流会に分かれて参加。3日目はあいにくの雨のため、タクシー分乗で平和公園に行き、職場や友の会から託された折鶴を奉納して開会総会へ。海外、日本各地の取り組み報告や被爆者の訴

耳原総合病院ICUでは、2年前から面会制限を原則的に撤廃しています。メリット・デメリットについて、記事では、関西医科大学付属病院、日本赤十字広島看護大学の先生方からのコメントや立川相互病院(東京・立川市)のとりくみも紹介されています。

え、核兵器禁止条約のホワイト議長のメッセージの代読など、7000人が聞き入り、長崎を最後の被爆地にとの思いを込めた決議、核兵器禁止条約の批准を各国に求める特別決議を拍手で確認して総会は終了しました。

またたく間の3日間でしたが、歴史的大会へ送り出してくれたみなさん、ありがとうございました。(みみはらグループ原水禁世界大会代表団 事務局長 近藤 聡)

皆さんの気持ちが詰まった折鶴を奉納してきました

理事会報告

7月度理事会(概要)

- 7月27日(木)午後7時から理事29名、監事3名の出席で2017年度・第22回理事会が同仁会本部3階で開催されました。理事長挨拶のあと、専務より会務報告、その他友の会活動等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について了承しました。
- ① 全日本民医連、大阪民医連、拡大常任理事会報告
- ② 友の会活動と健康づくり、医学生委員会及び看護確保推進委員会報告
- ③ 健康友の会みみはら代表世話人会議、ふれあい支えあい委員会報告
- ④ 6月度経営及び2017年度第一四半期の評価と課題について報告
- ⑤ その他
 - ・理事会及び評議員の構成に関する提案
 - ・評議員会9月7日開催の提案
 - ・社保平和委員会報告
 - ・泉州看護専門学校新築工事、耳原高石診療所事務長の任免、同仁会評議員報酬規程の一部改定の提案等

シリーズ 現場からの視点

その28

毎年実施されている熱中症調査のため、Aさん(70代男性) 要介護2 独居 生活保護世帯 クーラーなし)の自宅を訪問。

この日は昼から天候が崩れ、気温はさほど高い状況ではありませんでしたが、室温は30度、湿度は80%近い状態。体温は36.5度と平熱でしたが血圧はかなり低く、脱水が疑われるような状態でした。本来であれば、何とかエアコン等を設置できるよつ、支援を行なうべきなのですが、家賃の滞納、借入金の返済などなど金銭面での問題が相次ぎ、本人や日常生活支援事業の担当者とも協議の上、今回はエアコンは断念し専門業者(メモリーズ)に依頼し本人用とヘルパー用の2台の扇風機を提供してもらいました。

熱中症調査

ケアマネージャーからの視点

は抵抗が強く、自由に自宅では生活したいという思いが常にあるため、見送ることになりました。服薬に関してはケアマネージャーが中心となり多職種が連携して工夫を凝らし、なるべく服薬忘れを防ぐ方法をすることで、訪問介護のサービスはそのままの提供で継続。デイサービスの利用日を1日追加することで、少しでも環境の良い場所へ移動し、また外出機会やリハビリを増やすことで、精神安定や認知症の抑制につながるプランを提案「それなら行きたい」とやっと快諾してもらいました。デイサービスで、作られたものを食べていただけるとも、大きなポイントになりました。完全な解決ではありませんが、多職種で連絡調整を行い、専門的な意見交換を行なうことで、今後もよりよい自立支援を提供することが出来ればと考えます。(耳原高砂ケアプランセンター 本出さおり)

